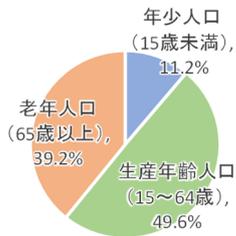


芦屋 (あしや)

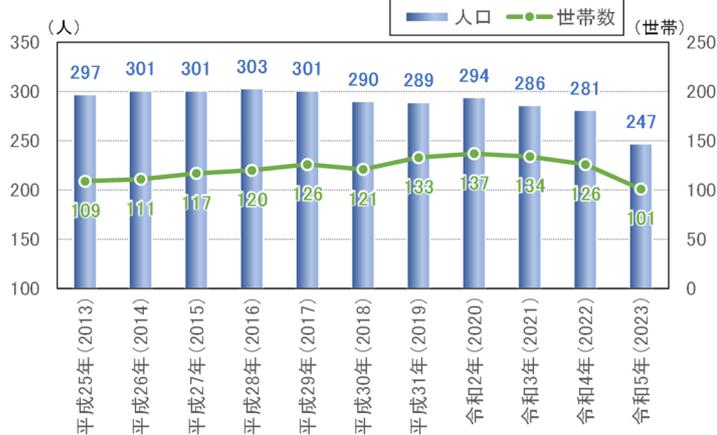
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	247人
世帯数	101世帯
高齢化率	39.2%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落は、日本海の波によって形成された砂州と宮谷川が日本海に注ぐ沖積平野に位置する。集落の西側には芦屋城址がある城山がそびえ、南側を JR 山陰本線と国道 178 号が東西に並走する。

地名由来 「芦屋」の地名の由来は、芦で葺いた家が広まった名とされ、古くは「あせい」という名の説もあり、弘治3年 (1557) の『但馬国にしかた日記』には「あせい」の名が見える (『たじま地名考』日本海新聞)。

歴史等 城山山頂に位置する南北朝期から戦国期の芦屋城址は、塩冶氏が居城したが、天正9年 (1581) の羽柴秀吉の但馬攻略により落城した。地区内には、塩冶氏の位牌堂 (現在の龍潜寺) が建てられた。

近世の芦屋村は、豊臣政権下では太閤蔵入地 (豊臣氏の直轄地) で、江戸時代には、慶長10年 (1605) 旗本宮城氏知行、正保元年 (1645) 幕府領、寛文8年 (1668) 豊岡藩領、享保12年 (1727) からは幕府領となった。宝暦10年 (1760) の村明細帳によれば、家数30・人数130。天保5年 (1834) の『但馬国郷帳』 (天保郷帳) の村高は168石余。浜が広く、元禄年間 (1688~1704) 以前から近隣漁村の干鰯場として、浜賃金をとって賃貸していた。戦後は、浜坂漁港が新設された。

明治22年 (1889) 東浜村の大字となり、明治24年 (1891) からは浜坂町の大字となる。明治24年 (1891) の戸数39、人口は男122・女101。

これまで把握している文化財

文化財の件数 46 件 (うち指定等文化財 7 件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等		
有形文化財	建造物	建築物	0	16		
		石造物	1			
		工作物・その他の構造物	0			
	美術工芸品	彫刻	2			
		絵画	0			
		工芸品	10			
		書跡・典籍	0			
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	3	0		
		音楽	0			
		演劇	0			
		工芸技術	0			
	民俗文化財	有形の民俗文化財	その他の無形文化財		0	9
			信仰の場		4	
			祭具		0	
			民具		0	
		無形の民俗文化財	その他の有形の民俗文化財		0	
			年中行事・民俗芸能		2	
記念物	遺跡	民俗技術	0	20		
		食文化	0			
		民間説話・俗信	3			
		その他の無形の民俗文化財	0			
		散布地・集落跡・生産遺跡	2			
		古墳・その他の墓	1			
		城館跡・寺社跡	3			
	名勝地	街道・古道等	3			
		戦争遺跡	1			
		その他の遺跡	0			
		山岳・高原・丘陵	0			
		海岸・海浜・島嶼	0			
		河川・滝・溪谷・湖沼	0			
動物・植物・地質鉱物	公園・庭園	1	8			
	その他の名勝地	1				
	動物	0				
文化的景観	植物	5	2			
	地質鉱物	3				
伝統的建造物群	生活・生業・風土により形成された景観地	0	0			
	宿場町・城下町・農漁村等	1	0			



芦屋城址と塩冶周防守顕彰碑



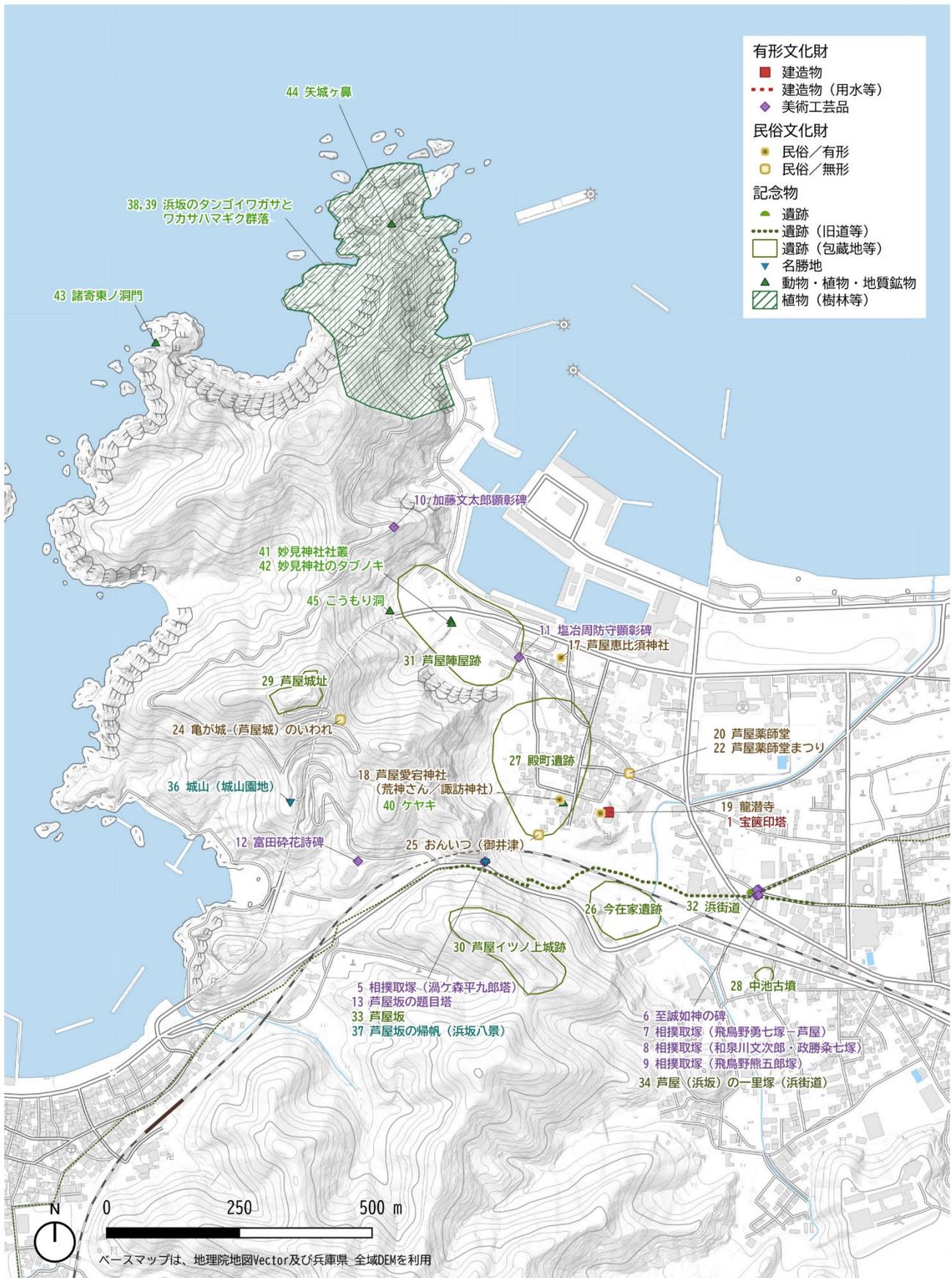
芦屋薬師堂



芦屋愛宕神社 (荒神さん) のケヤキ

※人口・世帯数は住民基本台帳 (令和5年4月現在) による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

1-02 芦屋

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
石造物	1	龍潜寺の宝篋印塔 (1862年建立)	文久2年(1862)3月建立。高さ約1mの切石積の上に切石を四段積み、その上に基壇をつくる。塔の高さは、基礎以上195cm、地上全高440cm。基礎は正面に「寶塔」の二文字を、また四面ともに経文を刻み、上端には八葉の単弁を彫るが、弁の凹凸が普通と反対につくられている。塔身には、金剛界四方仏種子を刻むが、普通とは配列が異なっている。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	2	薬師如来像	芦屋薬師堂の本尊。寺伝によると、永久元年(1113)竜宮(浜坂)の海中から出現した霊像とされる。ヒノキの寄木造り、高さ90cm、幅60cm、奥行き40cmの坐像で、鎌倉時代の作と思われる。また、薬師堂には脇侍の日光・月光菩薩像・十二神将像も安置されている。 町指定文化財
	3	龍潜寺の阿弥陀如来像	龍潜寺の本尊。木造仏。室町から江戸時代の作と思われる。
	4	船名額	船名額は、和船の帆柱の後方にある神棚に掲げ、船の守護神として祀られていたもので、額の大きさでその船の大きさが分かると言われている。浜坂地域には、船名額が4基残されており、江戸時代末～明治の初めにかけて栄えた浜坂の廻漕業を知る貴重な資料である。新温泉町山陰海岸ジオパーク館所蔵。 町指定文化財
工芸品	5	相撲取塚 (渦ヶ森平九郎塔)	芦屋坂の峠の頂上に位置する石塔。側面には「文政四年(1821)六月十三日卒ス・施主飛鳥野勇七」と刻まれており、有名な相撲取「飛鳥野勇七」が施主であることが分かる。
	6	至誠如神の碑 (1811年建立)	文化3年(1806)9月7日、赤い火の玉が南から北の空へと流れ、浜坂村の漁師たちは、これは不吉なことの予触れだと思い出漁を見合わせた。他村の漁師は朝風に安心して出漁したが、たちまち海は大荒れとなって多くの犠牲者を出した。一人の犠牲者も出さなかった浜坂浦の人々は、神のご加護と感謝してこの碑を建てたという。なお、赤い火の玉は隕石と思われ、江戸期の隕石落下記録として注目されている。凝灰岩の自然石型。高さ249cm。主碑銘は「至誠如神」。文化8年(1811)春建立。
	7	相撲取塚 (飛鳥野勇七塚)	弘化4年(1847)8月、和泉川文治郎による建立。江戸時代末には各村々で相撲が盛んになり、その仲間たちが強い力士を村の守護神として村の出入口等に相撲取塚を建立した。
	8	相撲取塚 (和泉川文次郎・政勝桑七塚)	明治15年(1882)秋、門弟中による建立。江戸時代末には各村々で相撲が盛んになり、その仲間たちが強い力士を村の守護神として村の出入口等に相撲取塚を建立した。
	9	相撲取塚 (飛鳥野熊五郎塚)	大正2年(1913)下雅意五郎外5名と因州力士一力半七郎ら6名による建立。江戸時代末には各村々で相撲が盛んになり、その仲間たちが強い力士を村の守護神として村の出入口等に相撲取塚を建立した。
	10	加藤文太郎顕彰碑 (1970年建立)	昭和45年(1970)8月2日建立。日本山岳会に不朽の足跡を残した登山家加藤文太郎の顕彰碑。
	11	塩冶周防守顕彰碑 (1929年建立)	昭和4年(1929)、昭和天皇御大典記念に芦屋区が芦屋城城主の塩冶周防守の治世を偲び建てたもの。碑文は「城主塩冶周防守之碑」。
	12	富田碎花詩碑 (1968年建立)	碎花は但馬海岸を愛し、再三この地を訪れており、昭和43年(1968)4月、碎花も出席してこの碑の完成を祝った。碑は香川産の高さ1mの庵治石で、神戸市在住の彫刻家納健の手で刻まれたものである。
	13	芦屋坂の題目塔 (1885年建立)	「南無妙法蓮華経・能勢妙見大菩薩」「明治十八年酉(1885)二月」「往来安全願主芦屋村陣在桑助」と刻まれた石柱。明治期の旧道整備の際に建立されたもので、村境守護と旅人の通行安全を願うものである。泥岩の自然石型。高さ127cm。

分類	番号	名称	概要
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	14	松岡益一文書	元和3年(1617)「但馬国二方郡石高帳」他芦屋村文書(漁業関係)。
	15	芦屋部落文書	幕末から明治期の「嘉永5年(1851)芦屋浜翫干場」など、漁業・廻船・山論争(城山)関係の芦屋村文書。
	16	塩冶周防守の位牌	芦屋城主塩冶周防守は天文8年(1539)に亡くなり、法名を「光照院殿梅月宗香大禅定門」という。位牌は龍潜寺に祀られている。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	17	芦屋恵比須神社	芦屋字館にあり、事代主命をまつる。由緒は明確でないが、明治の頃、浜坂米田弥右衛門、芦屋松岡藤造等が巾着網を作ったとき、松岡藤造が西宮より勧請したとも言われる。漁協文書によると巾着網の許可は明治36年(1903)であることから、これ以降のことと思われる。はじめは小さな祠であったが、現在の堂が再建された。
	18	芦屋愛宕神社 (荒神さん/諏訪神社)	東面して立つ小祠。祠の傍らには御神木である荒神さんの大ケヤキが立ち、浮き上がった根が境内を張りめぐっている。
	19	龍潜寺	臨済宗の寺院。本尊は阿弥陀如来像で、寛文6年(1616)に黙法和尚によって建立。延宝年間(1673-1681)は塩冶氏の菩提寺として、代々芦屋城主塩冶氏の菩提が弔われ、現在も塩冶氏の位牌が安置されている。
	20	芦屋薬師堂	龍潜寺の山道脇に位置する。本尊の薬師如来像と脇侍の日光・月光菩提像、十二神将像が安置されている。この薬師如来像は、特に目の病気に霊験あらたかといわれる。毎年7月7日・8日に大祭が行われる。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	21	川下祭り(渡御行列)	但馬三大祭りの一つとして長い歴史を誇る。毎年7月中旬の3日間、宇都野神社で行われる。江戸時代中期に、浜坂が豊岡京極領から天領に変わったのを機に、京都八坂神社(祇園社)の大祭にちなんで行われたのが始まりと伝わる。2日目の本祭りには、神輿や鉦などの出し物が町内を練り歩く「渡御行列」が行われ、浜坂県民サンビーチに設けられた「御旅所」では、麒麟獅子舞が奉納される。渡御行列では、家業繁栄、家内安全、商売繁盛を願う「獅子舞」「榊」「鉦」「神輿」などの屋台が巡行する。 町指定文化財
	22	芦屋薬師堂まつり	毎年7月7日・8日に行われる。
民間説話・ 俗信	23	塩冶の供養踊りと芋まつり	※『但馬の城』(昭和50年、但馬の城編集委員会編集、但馬文化協会発行)p131参照
	24	亀が城(芦屋城)のいわれ	※『但馬の城』(昭和50年、但馬の城編集委員会編集、但馬文化協会発行)p130参照
	25	おんいつ(御井津)	※『但馬の城』(昭和50年、但馬の城編集委員会編集、但馬文化協会発行)p131参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	26	今在家遺跡	弥生～古墳時代の散布地。サヌカイト片、須恵器片が散布。
	27	殿町遺跡	古墳時代～近世の集落跡。須恵器片、土器片が散布。桃の木の植え替え中に須恵器・土器の高坏が出土。地下1mに石垣のようなものが残る。
古墳・ その他の墓	28	中池古墳	古墳時代の古墳。横瓶等須恵器が出土。全壊。

1-02 芦屋

分類	番号	名称	概要
城館跡・ 寺社跡	29	芦屋城址	室町～戦国時代にかけて塩冶氏が居城とした城で、天正9年(1581)羽柴秀吉の但馬攻めで落城した。昭和59年(1984)に本丸部分の発掘調査が実施され、建物跡や青磁・白磁・天日茶碗・古銭(宋銭)などが出土した。 町指定文化財
	30	芦屋イツノ上城跡	中世の城館跡。堀切、郭が残る。標高129m辺りの西城と標高54mより東側の東城に分けられる。小曲輪群を断続的に配置する縄張りから、南北朝期に築城起源をもつと思われるが、西城の細長い曲輪を中心に、室町期に改修が加えられたと考えられる。南北朝期から戦国期にかけて芦屋城と防衛的に連携していたと考えられる。
	31	芦屋陣屋跡	中世～近世の城館跡。居館部以外の村中の道路配置をみると、清富のような碁盤目状の町立ては見られないため、織豊期・江戸期もほぼ塩冶氏時代の道路配置を踏襲していたと思われる。馬洗池東側と館東縁部に江戸初期の構築と思われる石垣が残り、塩冶氏の居館部を踏襲しながら、織豊期・江戸初期に石垣を構築して再利用したものと推察される。芦屋村絵図にみる居館部は、織豊期・江戸初期の姿を反映したものと考えられる。
街道・古道等	32	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道178号に沿い、道幅は街中で約2間、平地は1間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方斎の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記(第5次)などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。
	33	芦屋坂	浜街道のうち、浜坂と諸寄を結ぶ古道の峠で、芦屋字坂ノ下辺りからの急なジグザグ道。明治の旧道は山陰本線の芦屋踏切を渡るとすぐに右に折れ、山裾からジグザグに登り、切通しを越えて諸寄に至る。昔は頂上の手前に峠茶屋があった。大正4年(1915)に現在のような直線の道となった。
	34	芦屋(浜坂)の一里塚	浜街道の一里塚。地堂の西外れの芦屋踏切横交差点付近。幕末頃の浜坂村絵図に「字一里塚」とある。至誠如神碑や相撲取塚がある。
戦争遺跡	35	芦屋村松林台場	天保13年(1843)以降に久美浜代官所が設置したと思われるが、遺構は不明である。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
公園・庭園	36	城山(城山園地)	周囲からのランドマークとなり、桜の名所でもある。諸寄の美しい海と日本海に沈む夕陽などを眺められる。岡垣徹治の歌碑と第1回前田純孝賞歌碑が建てられている。遊歩道を北に進むと浜坂港や浜坂の町を一望できる場所に加藤文太郎顕彰碑も建立されている。
その他の 名勝地	37	芦屋坂の帰帆(浜坂八景)	作者の森貞次は七釜屋七代孝一郎の次男、八代孝治の弟で、明治16年(1883)生まれ。近江八景にならい、浜坂八景をあげ、随筆『浜坂八景』を著している。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	38	浜坂のタンゴイワガサ群落	タンゴイワガサは、越前・丹後・但馬地域の岩場に自生する耐寒性のバラ科の植物で、毎年5月下旬頃、小さい可憐な花を咲かせる。 県指定天然記念物(「浜坂のタンゴイワガサとワカサハマギク群落」として)
	39	浜坂のワカサハマギク群落	ワカサハマギクは、その名の通り、若狭を中心に越前から但馬・因幡の浦富まで分布しているキク科の植物で、日当たりがよく、潮風のあたる場所に自生し、毎年10月下旬頃に白い花を咲かせる。 県指定天然記念物(「浜坂のタンゴイワガサとワカサハマギク群落」として)

分類	番号	名称	概要
植物	40	芦屋愛宕神社(荒神さん)のケヤキ	整枝により樹型がよく、一見盆栽木の典型にみえる。浮き上がった根が境内を張り巡らす姿は、巨木の年輪を感じさせる。地上2mの位置より3支幹に分かれ、子ども達の木登りに格好の樹として親しまれてきた。樹高18m、幹回り5.7m。
	41	妙見神社社叢	標高20mの岩山にある。岩山の南東と北西は母岩(玄武岩質安山岩)が絶壁状に露出した断崖になっており、割れ目などにはツワブキ、トキワイカリソウなどが生えている。北東裾の妙見神社の小祠脇にはタブノキ、ケヤキなどの大木が生えている。頂上付近では樹木の高いもの(7~8m)ではシイが優占し、ケヤキ、タブノキなども見られる。
	42	妙見神社のタブノキ	岩山の北東側の裾に小さい祠(妙見神社)があり、その右側にタブノキの大木がある。高さ23m、胸高直径150cm。岩の上ではなく祠のある平坦面の砂土層に生えている。
地質鉱物	43	諸寄東ノ洞門	1600万年前に噴出した安山岩の中にできた亀裂が波によって浸食されてできた洞門。入り口の幅20~25m、長さ60m、高さ15m。典型的な形の整った大型の貫通洞門として学術的に価値が高い洞門である。 県指定天然記念物
	44	矢城ヶ鼻	浜坂湾の西側は城山から北へのびる凝灰角礫岩の崖が続き、その先端の矢城ヶ鼻には、海に面してその壁面を広くあらわした流紋岩の岩脈がある。矢城ヶ鼻の上の岬には白い灯台が建っている。
	45	こうもり洞	洞窟の入り口の高さが海拔8mの離水洞穴。洞穴は八鹿累層諸寄安山岩の節理に沿ってできており、奥行きは約80mある。戦国時代に背後にある城山の抜け穴であったという伝説がある。

■ 伝統的建造物群

分類	番号	名称	概要
宿場町・城下町・農漁村等	46	芦屋の旧城下町	城山の麓には、芦屋陣屋跡や城主塩冶周防守を祀る龍潜寺、塩冶周防守の碑、屋敷跡や石垣、堀の役割をした宮谷川等の堀跡、馬場跡などが残る。また「殿町」や「館」などの小字名、地域に伝わる民間説話なども伝わり、かつての城下町の歴史と風情を感じることができる。